

製品名: Rab 3 GAP p130 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16749**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	117kDa

抗原情報

遺伝子名	RAB3GAP1
別名	RAB3GAP1; KIAA0066; RAB3GAP; Rab3 GTPase-activating protein catalytic subunit; RAB3 GTPase-activating protein 130 kDa subunit; Rab3-GAP p130; Rab3-GAP
遺伝子 ID	22930.0
SwissProt ID	Q15042
免疫原	抗血清はヒト RAB3GAP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 538-587

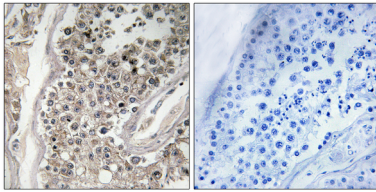
背景

この遺伝子は、Rab GTPase 活性化タンパク質の触媒サブユニットをコードしています。コードされているタンパク質は、非触媒サブ

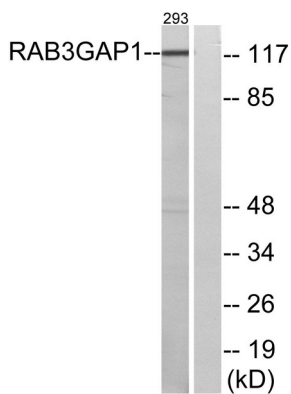
ユニットとヘテロ二量体を形成し、低分子 G タンパク質である Rab3 サブファミリーのメンバーの活性を特異的に制御します。このタンパク質は、GTP 結合型 Rab3 を GDP 結合型へと加水分解します。この遺伝子の変異は、ワールブルクミクロ症候群と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2010年2月]、疾患：RAB3GAP1 の欠陥は、ワールブルクミクロ症候群 1 (WARBM1) の原因です[MIM:600118]。WARBM1 は、眼および中枢神経系の発達異常、ならびに小生殖器を特徴とする重度の常染色体劣性疾患です。機能：Rab3 サブファミリー (RAB3A、RAB3B、RAB3C、および RAB3D) に特異性を持つ GTPase 活性化タンパク質の触媒サブユニットと考えられます。Rab3 タンパク質は、神経伝達物質およびホルモンの調節されたエキソサイトーシスに関与しています。特異的に、活性型 Rab3-GTP を不活性型 Rab3-GDP に変換します。正常な眼および脳の発達に必要です。シナプス形成前の増殖、移動、分化、および神経伝達物質の非シナプス小胞放出といった神経発達過程に関与する可能性がある。類似性：Rab3-GAP 触媒サブユニットファミリーに属する。細胞内局在：ニューロンでは、シナプス可溶性画分に豊富に存在する。サブユニット：Rab3 GTPase 活性化複合体は、RAB3GAP と RAB3-GAP150 からなるヘテロ二量体である。Rab3 GTPase 活性化複合体は DMXL2 と相互作用する。組織特異性：普遍的。

研究分野

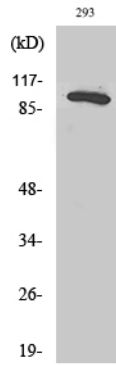
画像データ



RAB3GAP1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト精巣組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



RAB3GAP1 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 希釈の Rab 3 GAP p130 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタン
ブロット分析